

V 報告内容

近年の環境の変化や国際交流基金の管理運用の見通しも勘案しつつ策定した「中期計画（R6～10年度の運営方針）」のもと、県・市町をはじめ県市町協会や外国人支援団体、その他関係団体等と更なる連携を深めながら「多文化共生の地域づくり」及び「次代を切り拓く国際交流」の推進に努めた。

1 多文化共生の地域づくりの促進

地域の実情に合わせた日本語教育の体制づくりを県・市町等と連携しながら進めるとともに、災害時等における外国人支援、地域のボランティア団体等と連携した居場所づくり、多言語に対応した総合相談センターの運営により、多文化共生の地域づくりを促進する。

(1) 外国人県民の地域での活躍を支える日本語教育の総合的体制づくり、生活相談体制の促進

ア 地域日本語教育の総合的な体制づくりの推進

(R7年度決算額 34,548 千円) (R6年度決算額 31,081 千円) 【国補助等】

日本語学習を必要とする外国人県民が、身近な生活圏で日常生活に必要な日本語能力を身につけることができるよう、文部科学省「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、兵庫県における日本語教育体制を整備

(ア) 兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり

① 総合調整会議の開催

市町、経済団体等による総合調整会議を県と共催で設置、県内の日本語教育の体制づくりを推進

・時 期：①6月3日（火）②1月20日（火）

・形 式：オンライン

・内 容：地域日本語教育の総合的な体制づくりにかかる事業計画、県内市町の事例紹介等

② 総括コーディネーターの配置

総括コーディネーター2名を配置し、総合調整会議を開催するほか、全県的な体制づくりのための事業を実施し、市町による日本語教育の体制づくりを支援

③ 日本語教育アドバイザー（外部有識者）の活用

県内の日本語教育推進課題、事業内容や進め方について諮問

(イ) 地域日本語教室支援事業（拡充）

① 地域日本語教室伴走支援

市町からの要望を受け、新規教室の立ち上げ、既存教室の立て直し等に関して、アドバイスや必要とされる研修・講座の運営におけるサポートを実施

・実施市町：伊丹市、丹波市、播磨町

② 地域日本語教室開設支援のための「すぐに役立つ日本語講座」の実施

HIA で実施している「すぐに役立つ日本語講座」を基に初級日本語講座を伴走支援実施市町である丹波市で開催。翌年度の日本語教室運営に向け、その地域に応じた講座の在り方を丹波市および丹波市国際交流協会と協力して検討

- ・内 容：対面の生活日本語講座
- ・場 所：丹波市
- ・回 数：2時間×8回、1クラス
- ・時 期：11月29日（土）～1月31日（土）
- ・受講者数：11人



**すぐに役立つ日本語講座@丹波
第6回「丹波を楽しむ」**

③ HIA 地域日本語教育コーディネーターの派遣

HIA 地域日本語教育コーディネーターを委嘱により配置。市町・市町国際交流協会等日本語教室実施団体からの要請に応じ支援者養成講座等へ派遣し、地域の日本語教室との連携を強化。また、ニーズ等情報を収集し、将来的に県下市町において地域日本語教育コーディネーターとして活躍できる人材を育成・確保

- ・委 嘱：3名
- ・派 遣：13件（10団体）

（ウ） 外国人県民対象日本語講座開催事業

広く全県を対象に、オンライン等の手法を取り入れながら、生活場面での対処能力を高めるための日本語教師による講座を開催

また、地域の日本語教室への知見の普及を図るため、見学者やサポーターを受け入れたほか、日本語教育の活動拠点として、日本語教育教材の収集・管理、調査・研究に資する日本語教育推進室を管理・運営

① 「外国人県民対象初級日本語講座」（オンライン講座）

- ・内 容：オンラインによる文型積み上げ型初級講座
- ・回数等：各クラス2時間×週2回×9週間×2期 72時間
- ・クラス：初級6クラス（A～F）
- ・受講者：第1期59人、第2期60人
- ・開催日：第1期5月19日（月）～7月18日（金）
第2期11月10日（月）～1月26日（月）
- ・受講料：各期1,000円
- ・その他：講座終了後の交流イベントとして「にほんごではなそう」を開催
7月29日（火）、参加者18人

② 「すぐに役立つ日本語講座」（対面講座）

- ・内 容：生活場面と密着したコミュニケーション能力の向上に資する講座
- ・日数等：18日間 45時間

- ・クラス：2クラス（レベル別）
- ・受講者：22人
- ・開催日：9月3日（水）～10月31日（金）
- ・受講料：4,000円



すぐに役立つ日本語講座 110番通報の練習

（エ）日本語学習支援人材育成事業

地域の実情に応じた日本語学習支援に向けた学習支援者、日本語教師、地域日本語教育コーディネーター等の人材を育成するため、外国人県民の支援に役立つ研修を実施

- ① 生活者としての外国人県民への学習支援者対象研修
 - ・開催日：①9月25日（木）、②10月2日（木）、③10月9日（木）、④10月23日（木）、⑤10月30日（木）
 - ・回数：全5回（オンライン2.5時間×5回）
 - ・内容：地域日本語教室のあり方、教室活動に活きる支援方法等
 - ・参加者：延べ210人
- ② 日本語教師対象研修
 - ・開催日：①8月1日（金）、②8月22日（金）、③8月29日（金）
 - ・回数：全3回（オンライン2時間×3回）
 - ・内容：地域日本語教室と日本語教師の役割
 - ・参加者：延べ129人
- ③ 地域日本語教育コーディネーター育成研修
 - ・開催日：①6月24日（火）、②6月25日（水）、③8月26日（火）、④10月28日（火）
 - ・回数：全4回（対面4時間×3回、オンライン2時間）
 - ・内容：地域の外国人住民や教室の課題整理、解決策や実践計画の作成、コーディネーターの役割の理解
 - ・参加者：14人 第2回（オンライン）24人
- ④ 日本語学習支援者 ICT 活用研修（日本語学校等へ委託）
 - ・開催日：①10月31日（金）、②11月7日（金）、③11月14日（金）、④11月21日（金）、⑤11月28日（金）、⑥12月5日（金）
 - ・回数：全6回（2時間×6回）
 - ・内容：Zoomに関する基礎理解、学習支援への応用、ICT教材の活用等
 - ・参加者：延べ89人

⑤ 地域日本語教育シンポジウムの開催

兵庫県で取り組む日本語教育や、国の動向、市町・企業の役割等について理解を深めるため、市町・市町国際交流協会、日本語学習支援者、日本語教師、外国人雇用企業関係者等を対象に実施

・開催日：9月9日（火）

・形 式：オンライン

・内 容：基調講演「ともに生きる社会のために知る－外国人受入れの制度と現状－」、国の動向、兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり、外国人雇用に関する企業認定制度について

・参加者：72人

⑥ 地域日本語教育活動実践持ち寄り会の開催

優良事例を共有し、横展開を図るとともに、団体や市町の枠を越えた緩やかなネットワークの構築を目指し、県内の日本語教室の実践報告及び意見交換を実施

・開催日：12月23日（火）

・形 式：対面

・内 容：県内の日本語教室実施団体（8団体）支援者による実践発表、意見交換

・参加者：発表者24人、来場者76人



地域日本語教室実践持ち寄り会

（オ） 地域日本語教育向け教材の開発及び普及

HIA のオリジナル教材を元に、令和5年度に作成した「できる？できた!!くらしの にほんご入門版」を順次多言語化。今年度はネパール語版を作成、HP で公開し、地域の支援者への普及を促進

提供言語：英語・中国語・ウルドゥー語・ベトナム語・ネパール語

イ ひょうご多文化共生総合相談センターの運営

（R7年度決算額 41,861千円）（R6年度決算額 40,483千円）【県委託等】

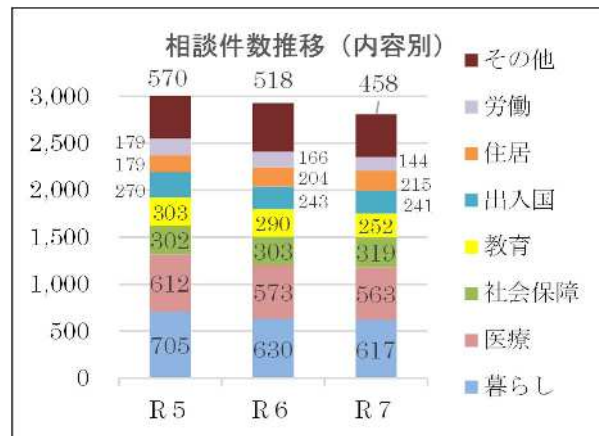
国の「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」に基づき、法務省の支援を得て外国人県民への総合生活相談窓口機能を有するセンターとして県が設置する「ひょうご多文化共生総合相談センター」を運営。同センターでは、平日の生活相談は「外国人県民インフォメーションセンター」が実施し、週末相談については NGO と協働で「週末相談窓口」において実施

(ア) 外国人県民インフォメーションセンターの運営

医療、暮らし、社会保障、教育、労働など外国人県民の日常生活の多様な相談に応じるため、5言語による相談員及び専門相談員による生活相談を実施

また、電話通訳及び翻訳アプリの活用により、ベトナム語、韓国語、タガログ語、インドネシア語、タイ語、ネパール語等での対応を実施（合計25言語）

- ・開設時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00
- ・体制：センター長1名、相談員5名
- ・対応言語：（相談員）日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語
（電話通訳等）タガログ語、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語、クメール語、マレー語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、ウクライナ語、ベンガル語、ウルドゥー語、トルコ語
※トルコ語は令和8年1月より利用開始
- ・相談件数：2,809件（うち法律相談件数：30件）



(イ) 週末相談窓口の運営

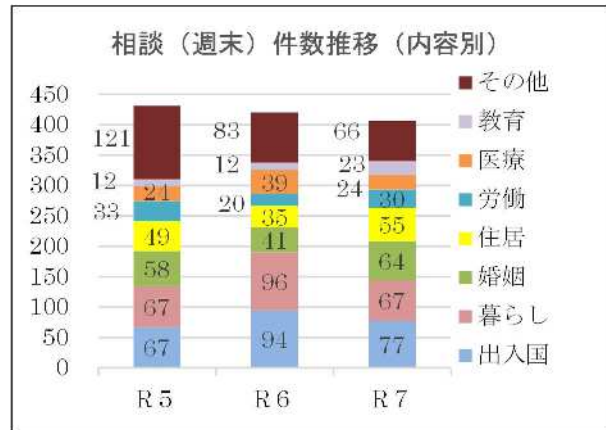
外国人県民インフォメーションセンターでの相談体制を補完する週末相談を、NGOと協働で、電話通訳及び翻訳アプリの活用により、同センターと同等の言語で対応（合計25言語）

- ・実施団体：NGO 神戸外国人救援ネット
- ・開設時間：土・日曜日 9:00～17:00
- ・体制：専門相談員2名が電話通訳も活用して対応
- ・対応言語：（相談員）日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語
（電話通訳等）韓国語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語、クメール語、マレー語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、ウクライナ語、ベンガル語、ウルドゥー語、トルコ語
※トルコ語は令和8年1月より利用開始

- ・相談件数：406件



NGO 神戸外国人救援ネット



（ウ） NGO/NPO が行う夜間相談活動等の支援

外国人県民が安全で安心して生活できる環境づくりを進めるため、NGOと連携して外国人県民に対する夜間相談を実施

- ・対象団体：NGO 神戸外国人救援ネット
- ・相談件数：232 件

ウ 外国人相談実務者地域会議の開催

（R7 年度決算額 56 千円）（R6 年度決算額 94 千円）

在住外国人が各地で増加し、日本語教室などボランティアで外国人からの相談を受けている人も増加している。そこで、日本語教室講師等も含め、外国人相談に対応している県内各地の実務者が、地域ごとに意見交換・情報共有を行い、外国人からの相談を受ける場合の心構えや関わり方などを互いに学び合うと共に、ネットワークを形成することで、相談対応実務者の資質向上と連携協力を推進

- ・内 容：県内 4 地域程度（これまでから研修を実施している神戸地域を除く）で、10 人程度の実務者が集まる面談形式の会議を開催。各団体からの相談事例発表と参加者による意見交換、専門家による講義などを実施
- ・参加者：23 団体・延べ 37 人（HIA、市町国際交流協会、NPO、日本語教室等で外国人相談に対応している実務者）



外国人相談実務者地域会議

(2) 公民連携による共生社会づくりを支える人材やプラットフォームの形成

ア 外国人県民・児童生徒の居場所づくり

(R7年度決算額 10,334千円) (R6年度決算額 9,246千円)

外国人県民・児童生徒が定期的に集まることができ、地域社会で生活する拠点となるとともに、日常生活や緊急時のセーフティーネットとして機能する、外国人県民・児童生徒の「居場所」として地域の母語教室、学習支援教室等の運営を行うボランティア団体等を支援

① 基本メニュー

◇児童生徒対象の母語・母語による学習支援教室の開催

・講座数：27 講座

◇地域日本語教室の開催

・講座数：20 講座

◇児童生徒対象の日本語・日本語による学習支援教室の開催

・講座数：25 講座

② 追加メニュー

上記基本メニューに加えて、地域のニーズに合った取組を実施

◇地域との交流活動事業の開催及び居場所としての機能に必要な取組

・事業数：4 事業

・事業例：地域の人との交流を図る多文化共生イベントや発表会等

◇外国人児童生徒の社会的・職業的自立を支える事業の実施

・事業数：6 事業

・事業例：先輩の体験談を聞き将来の目標を考えるワークショップ等

◇外国人児童生徒の進路・進学や未就学児童生徒等の学習（プレスクール）を支える事業の開催

・事業数：6 事業

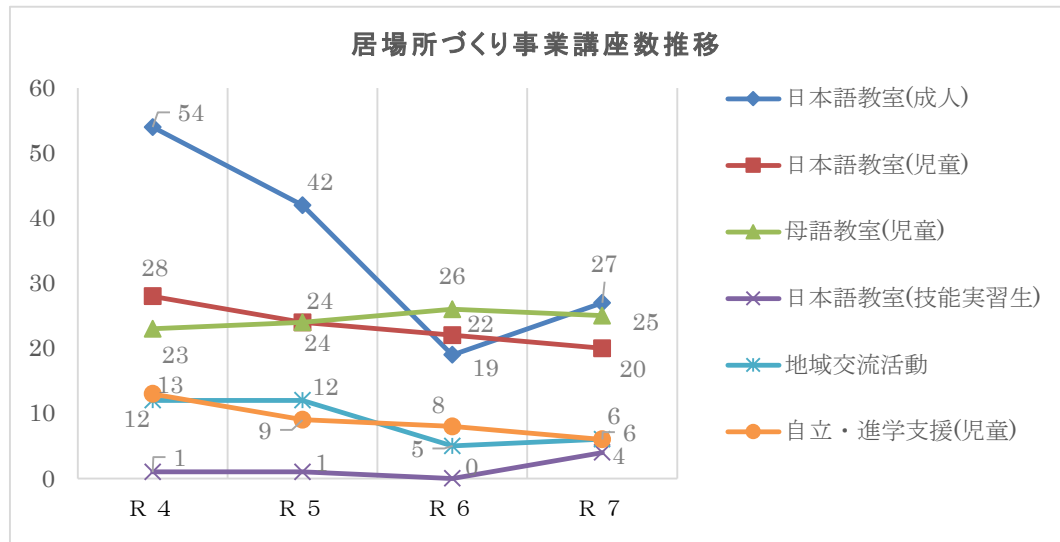
・事業例：入園・入学及び就学前の児童生徒のためのプレスクール教室等



(一社) さんサンにほんご (たつの市)



明石二見日本語教室「こんにちは」



イ 外国人コミュニティ活動支援事業

(R7年度決算額 4,149 千円) (R6年度決算額 4,181 千円)

外国人コミュニティによる母語教育等、身近な場所におけるきめ細やかな生活支援体制を構築し、外国人を含むすべての県民が安全で安心して暮らせる社会づくりを促進

(ア) 外国人コミュニティ活動支援事業

外国人コミュニティによる母語センターを活用した活動及び母語による生活相談等の活動を支援

- ・対象団体：ベトナム夢 KOBE、一般社団法人ひょうごラテンコミュニティ、NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ CBK

(イ) 海外移住と文化の交流センターへの支援

神戸市立海外移住と文化の交流センターにおいて、在住外国人が日本人へ自国文化を発信し交流する事業を NPO 団体との協働で実施し同センターの活用を促進

- ・内 容：多文化交流フェスティバルの開催
 - ① ブラジル移民祭
 - ・開催日：4月26日（土）
 - ・参加者：144人
 - ② ブラジル・日本の子どもの絵の交流展
 - ・時 期：8月2日（土）～1月31日（土）
 - ・参加者：約600人
 - ③ サロンカーニバル
 - ・開催日：2月15日（日）
 - ・参加者：約100人

ウ HIA 日本語及び多言語 WEB サイトの運用・保守

(R7年度決算額 1,897 千円) (R6年度決算額 1,739 千円)

日本語及び多言語 WEB サイトを通じて県内在住の外国人、支援者等に対する生活・講座情報等が円滑に発信できるよう、同システムの運用・保守を実施

・アクセス数：315,181 件

エ 外国人県民向け多言語情報発信事業

(R7年度決算額 1 千円) (R6年度決算額 1 千円)

災害時等に緊急情報を多言語で情報発信できる体制を整備し、情報不足による外国人県民の不安を軽減

① 災害時・非常時等多言語緊急情報翻訳事業

災害時・非常時等の翻訳について、翻訳・通訳を専門とする団体・企業と契約を締結し、迅速に多言語による情報発信を行う体制を整備

・委託先：(県内) NPO 法人多言語センターFACIL

(県外) 株式会社サイマル・インターナショナル

② 多言語情報発信に係る関係団体との連携等事業

外国人県民向けの情報提供のあり方などを外国人コミュニティ団体や関係機関等と意見を交換、各種会議等への参加で連携を強化

・多言語発信について関係機関（県警、県統計課、日本年金機構等）と協力

オ 災害時外国人支援

(R7年度決算額 194 千円) (R6年度決算額 62 千円)

言葉や文化の違いから、災害時に必要な情報を得ることが難しい外国人住民もいることから、多言語支援センターの設置運営訓練の実施等、災害時に備えるとともに市町及び市町国際交流団体の取組を促進

① 多言語広域支援センター設置運営訓練

多言語広域支援センター設置に関するノウハウを習得するため、訓練を実施

・開催日：令和7年9月1日（月）

・参加者：25 人

② 災害時通訳・翻訳ボランティア研修の実施

災害時に翻訳・通訳の支援を行う人材を育成する研修を実施

a 第1回

・開催日：令和7年9月13日（土）13:30～16:30

・共 催：(公財) 神戸国際コミュニティセンター、近畿地域国際化協会連絡協議会

・参加者：26 人

b 第2回

・開催日：令和8年1月31日（土）13:30～16:00

・共 催：(公財) 神戸国際コミュニティセンター、JICA 関西、近畿地域国際化協会連絡協議会

・参加者：60 人

③ 災害時外国人支援助成事業

県内の市町国際交流団体等が行政と連携して実施する、災害時の外国人支援事業に対して助成

・助成件数：1 件



災害時通訳・翻訳ボランティア研修

カ ウクライナ避難民への支援

(R7年度決算額 8,519 千円) (R6年度決算額 12,211 千円)

ウクライナから本県に一時避難した方々が安心・安全に過ごすことができるよう、日常生活への支援を実施

(ア) ウクライナ避難民生活支援金の支給

兵庫県の方針により新規受付は行わず、令和6年度受付分の生活費（120 千円/月/世帯）のみを支給

- ・支援実績：1 世帯 360 千円（R7年6月支給分で終了）

(イ) ウクライナ避難民への日常生活支援コーディネーター設置

ウクライナ避難民向けに相談窓口を設置し、生活に関する相談を受け付けるとともに、課題解決のため各種支援機関・市町等との調整を図り、避難民の暮らしへの日常支援（同行通訳や翻訳等を含む）を実施

- ・委託先：NPO 法人多言語センターFACIL
- ・支援実績：日常支援 132 件、生活相談 154 件

(ウ) ウクライナ避難民対象日本語講座

地域での継続的な支援を視野に入れ、その前段階としての地域住民との交流に最低限必要な入門期の日本語学習を「外国人県民対象日本語講座開催事業」と連携して実施

- ・受講者数：4 人

(エ) 県内ウクライナ避難民自立移行支援事業

避難生活の長期化を見据え、避難民が自立した県内生活を目指せるよう支援

① 社会参画・共助のきっかけ作りの場の提供

SNS（Facebook、LINE）の運用など、避難民・地域・支援団体等を繋げネットワークリングを図る事業を特定非営利活動法人多言語センターFACIL に委託

② ライフプランに必要な情報の提供

日本での避難生活が長期化し、今後避難民が県内で生活する上で必要な情報（一般生活、就学、就労、経済面、防災）についてのセミナーを開催し、自立へのスムーズな移行を支援

- ・件数：2件（11/22、12/18～20）
- ③ ウクライナ避難民グループによる地域との共創事業
支援団体とウクライナ避難民グループが主体となって実施する事業やイベント等への支援を実施
- ・助成団体：3団体、1,128千円



民族衣装試着体験会
(神戸定住外国人支援センター)



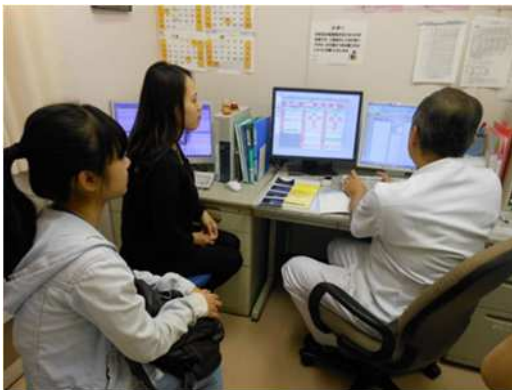
ペトリキウカ塗りワークショップ
(UKRAINE HOUSE KOBE)

キ 医療機関における外国人患者受入環境の整備

(R7年度決算額 3,002千円) (R6年度決算額 3,001千円)

医療機関における外国人患者受入環境を整備するため医療通訳コーディネーターの配置に伴う人件費及び遠隔地通訳システム構築に要する経費の一部を助成

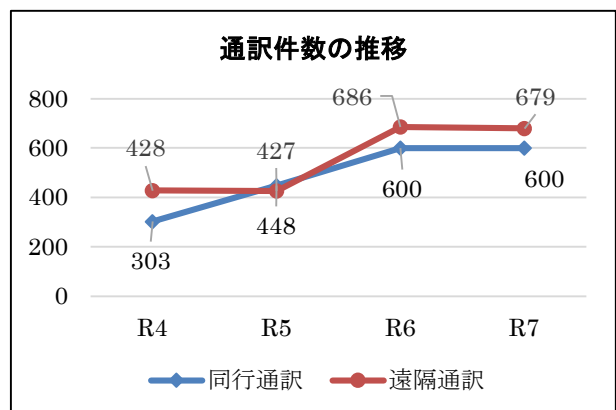
- ・対象：医療通訳コーディネーター機関(市町国際交流協会、NPO等)
- ・対象事業：医療通訳コーディネーターの配置、遠隔地通訳支援システム構築
- ・医療通訳利用件数：同行通訳 600件、遠隔通訳 679件



同行通訳対応



遠隔通訳対応(通訳者)



(3) 県内各地域の取組みを幅広い世代が相互に学び、連携する仕組みづくり

ア 多文化共生を考える研修会の開催

(R7年度決算額 1,281 千円) (R6年度決算額 1,282 千円)

外国人県民と接する機会の多い行政職員、教員、日本語教師、ボランティア等が、多文化共生について理解を深めることができる研修会を NGO と協力しながら開催

- ・開催日：①令和7年8月18日(月)、②20日(水)、③22日(金)、④23日(土) 計4日
- ・形 式：オンライン開催
- ・対象者：行政職員、教員、日本語教師、ボランティア、外国人支援 NGO 等
- ・実 績：①86人 ②88人 ③88人 ④83人 計345人

開催日	テーマ
8月18日(月)	総論～単一民族国家という幻想～
8月20日(水)	外国ルーツの子どもが元気になる教育
8月22日(金)	海外の移民、マイノリティ政策の光と影
8月23日(土)	地域の状況と協働



多文化共生を考える研修会

イ 国際交流団体等ネットワークの構築

(R7年度決算額 885 千円) (R6年度決算額 883 千円)

県内の国際交流団体が有するノウハウや情報の共有、有効活用を図るネットワークを構築し、団体相互の連携を推進するため、「ひょうご国際交流団体連絡協議会」(※)の活動を支援するとともに、「ひょうご国際交流メールマガジン」を広く配信するなど、情報発信を実施(※HIA、県内36市町の国際交流協会及び準会員5町で構成)

① 総会及び講演会

a 総会

- ・開催日：6月2日(月)
- ・場 所：国際健康開発センター9階会議室
- ・参加者：42団体中31団体(11団体は委任状による出席)

b 講演会

- ・講 師：(一社)グローバル人材サポート浜松代表理事 堀 永乃氏
- ・内 容：地域における技能実習生等外国人労働者を取り巻く環境と支援のあり方

- ② 情報共有・発信
 - a ひょうご国際交流メールマガジンによる各団体のイベント情報の掲載
 - ・発出回数：13回
- ③ 人材育成事業
 - a 国際交流団体新任職員等基礎研修
 - ・開催日：6/30（月）
 - ・形 式：オンライン
 - ・参加者：17団体19人
 - b テーマ別研修会・講演会
 - ・開催日：9月10日（水）
 - ・形 式：オンライン
 - ・内 容：外国ルーツの子供への日本語教育・支援
 - ・参加者：14団体35人（協議会会員以外も含む）
 - c 「やさしい日本語」講師の派遣
 - ・派遣回数：5団体7回
 - d 国際交流・多文化共生の担い手育成事業への助成
 - ・交付決定件数：4件
- ④ 啓発・普及事業
 - a 地域別意見交換会による情報共有
 - ・実施回数：各地域1回（6地域）
 - b 会員紹介冊子の発行（年1回）
- ⑤ 表彰事業（草の根国際功労賞）
 - ・個 人：4名



総会
(草の根国際功労賞受賞式)

2 次代を切り拓く国際交流の推進

県内市町・団体等と連携した国際交流や国際会議の開催を通じて、県民の国際理解の促進及び国内外の人的交流の推進を図り、幅広い世代での国際交流を進めるとともに、教育機関との連携等により将来を担う若年層が海外や地域の共生社会づくりに興味を持ち、グローバル社会で挑戦する契機を創出する。

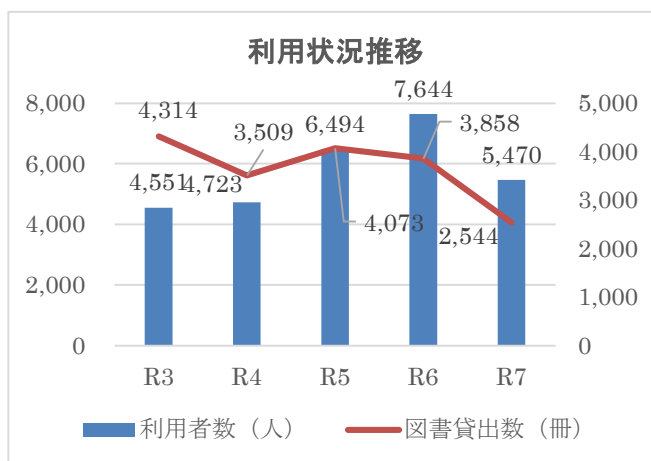
- (1) 築いてきたネットワークや交流基盤を生かし、次世代の若者が主体となる新たな交流を創出、育成

ア ひょうご国際プラザの管理・運営

(R7年度決算額 131,765 千円) (R6年度決算額 136,418 千円) 【県委託費等】

各種国際関係情報の提供やNGO等と連携した展示など国際交流等の場として設置している「ひょうご国際プラザ（図書館・交流ギャラリー）」を管理、運営・利用実績

区分	令和6年度	令和7年度	対前年同期比
来館者数	7,644 人	5,470 人	71.6%
貸出冊数	3,858 冊	2,544 冊	65.9%
交流ギャラリー展示件数	5 件	4 件	80.0%
図書館イベント	17 件	9 件	52.9%



英語で話そう クリスマス会



にっぽん大使たちの視線 2025
サンテレビ取材

イ 兵庫県海外事務所の運営

(R7年度決算額 149,659千円) (R6年度決算額 146,598千円) 【県委託費等】

兵庫県の国際戦略を推進するための拠点として、海外における友好交流、経済交流、観光交流事業を展開するため、兵庫県ワシントン州事務所、兵庫県パリ事務所及び兵庫県香港経済交流事務所を県からの委託を受け管理・運営

① 経済交流事業の展開

ひょうご産業活性化センターとの連携により、現地事務所のネットワークを生かして、地場産品の海外販路開拓など県内企業の現地活動を支援。また、海外の経済発展を本県の新たな経済成長に取り込むため、外国・外資系企業の県内への誘致を促進

② 観光交流事業の展開

観光フェア等への出展やセミナーの開催など様々な機会を捉えて、現地の政府関係者・旅行業関係者などに対して本県及び万博関連事業をPRすることで、外国人観光客の誘致などインバウンドを促進

③ 友好交流活動の展開

友好・姉妹州省を中心とする世界の各地域と双方の課題解決に向けた交流を推進するため、市町レベル・県民レベルの交流支援のほか、兵庫のプレゼンスを高めるための日本文化紹介事業の開催、学校間交流やスポーツ交流等、広範囲にわたる友好交流活動を展開

④ 草の根ネットワークの構築

海外事務所の円滑な運営を図るため、現地関係者・団体等とのネットワークを構築し、人材活用など相互協力を推進。また、ワシントン州では、これまでの文化活動を通しての草の根活動を継続し、南米では本県出身者の現地コミュニティ活動を支援

⑤ 南米との交流促進事業

現地連絡員をパラナ州クリチバに設置し、南米地域との友好ネットワークと交流を促進

⑥ 中小企業の海外展開支援など海外事務所の取組を国際フロンティア産業メッセで紹介

区 分	兵庫県ワシントン州 事務所	兵庫県パリ事務所	兵庫県香港経済交流 事務所
設 置 国	アメリカ合衆国	フランス共和国	中華人民共和国
設置都市	シアトル	パリ	香港
設置時期	H2. 5. 1	H5. 10. 1	H24. 10. 1
担当エリア	北米・中南米	ヨーロッパ・中東・ アフリカ	中国・ASEAN 諸国 インド・大洋州
職 員	4名 県職員 1名 派遣職員（神戸市） 1名 現地職員 2名	3名 県職員 1名 協会職員 1名 派遣職員（神戸市） 1名	3名 県職員 1名 派遣職員（民間企業） 1名 現地職員 1名

他団体との連携	・各事務所長はひょうご海外ビジネスセンター参与（経済交流担当）を兼務 ・県立大学の現地事務所 ・関西広域連合共同事務所として位置付け ・ワシントン州事務所は神戸大学海外拠点も担う
---------	--



日本食イベントで神戸ビーフをPR
〔兵庫県ワシントン州事務所〕



日本文化イベントで兵庫の観光や
日本酒をPR〔兵庫県パリ事務所〕



台中国際旅行展示会で兵庫観光をPR
〔兵庫県香港経済交流事務所〕

ウ ひょうご国際ネットワーク強化事業

（R7年度決算額 0 千円）（R6年度決算額 309 千円）

兵庫県の友好・姉妹提携先等から交流担当職員を受け入れ、本県への理解促進を図るとともに新たな人的ネットワークを形成することで、将来に向けた本県の国際ネットワーク強化と交流を促進

- ・受入状況：3月に韓国・慶尚南道政府からの受入を準備していたが、先方の都合によりR8年6月に延期

エ ひょうごホームステイ受入の調整

（R7年度決算額 130 千円）（R6年度決算額 154 千円）

県内に滞在する外国人に兵庫の魅力を知ってもらうとともに、外国人及び受入家庭の双方が異文化に対する理解を深め、交流を活発化できるよう、ホームステイを希望する外国人のマッチング等を実施

- ・対象：HIAの関係団体、HIAが実施する各種青少年交流プログラム参加者、県内大学等の留学生で大学から受入れ依頼があった者
- ・登録数：65 家庭

- ・受入実績：3件8名（受入延べ家庭数12家庭）

オ 草の根の国際交流の推進

（R7年度決算額 192千円）（R6年度決算額 406千円）

海外からの訪問団等の受入や、JICA 関西、大学コンソーシアムひょうご神戸、JETRO 神戸との4機関連携を活用した若者による草の根の国際交流を推進

① 次世代若者等の受入

- ・ひょうごトライやるウィーク：2名（中学2年生）
- ・大学コンソーシアムひょうご神戸インターンシップ：1名（留学生）
- ・4機関連携リレー式インターンシップ：6名（日本人学生3名・留学生3名）
- ・神戸大学の県ワシントン州事務所へのインターンシップ：2名
- ・県立大学の県ワシントン州事務所へのインターンシップ：2名
- ・姫路大学看護学部学生：61人

② 海外からの受入

- ・土日基金（トルコ）副代表：1名
- ・ワシントン州公立学校教員訪問団：10名
- ・アルゼンチン県人会元会長訪問団：14名
- ・アルゼンチン県人会顧問：1名

③ 友の会の運営

- ・兵庫県国際交流協会友の会会員証の交付（148人）
- ・広報誌（All about HIA）の配布
- ・協会が主催または後援する行事等の案内
- ・県内各施設への入場割引サービス



ワシントン州公立学校教員訪問団の
神戸空襲学習を支援

カ 国際協力セミナーの開催

（R7年度決算額 0千円）（R6年度決算額 36千円）

開発途上国をめぐる諸課題や国際協力に対する県民の理解を深め、国際協力活動への参画を促すため、国際支援・協力団体等と連携して、国際協力の専門家、県内 NGO や青年海外協力隊 OB 等を講師に招き、セミナーやフォーラムを開催。令和7年7月1日に連携協定を締結した JICA 関西、大学コンソーシアムひょうご神戸、JETRO 神戸と共に4機関連携事業として実施

- ・テーマ：自分流で世界と繋がる 〜いつでも、だれでも、どこででも〜
- ・開催日：11月15日（土）
- ・会場：兵庫国際交流会館
- ・参加者：60人
- ・内容：4機関職員や大学生がそれぞれの立場から国際交流・多文化共生活動を紹介し、仕事の面白さや課題を話し合うディスカッションを実施



4機関連携協定締結



若者の熱気があふれた国際協力入門セミナー

キ 民間国際交流事業への助成（拡充）

（R7年度決算額 1,126 千円）（R6年度決算額 1,555 千円）

県民が主体となった国際交流活動を育成・奨励するため、地域で取り組む国際交流事業、多文化共生事業に対し助成

- ・助成額：助成対象経費の1/2（上額10万円）
- ・対 象：県内で国際交流活動に継続的に取り組む NGO/NPO 等の非営利団体が行う国際交流事業及び多文化共生事業
- ・交付実績：17 件、1,051 千円



裏千家茶道体験



兵庫県国際ふれあいまつり

ク 国際会議開催への助成

（R7年度決算額 10,240 千円）（R6年度決算額 6,119 千円）

県内への国際会議誘致を促進するため、会議開催費の一部を助成

- ・助成金額：特別枠 500 万円以内（総事業費の10%以内）
（会期日程3日以上、参加国5カ国以上等の要件を満たす場合）
 - 一般枠 200 万円以内（総事業費の5%以内）
（上記以外）
 - 個別枠 エクスカーション助成（30 万円以内）
 - 伝統芸能等披露助成（10 万円以内）
- 〔令和7年度：交付決定件数5件、10,237 千円〕

ケ 国際会議場の活性化への支援

(R7年度決算額 300千円) (R6年度決算額 303千円)

国内外のさまざまな人々との交流を図るため、淡路夢舞台国際会議場を会場とする交流事業を共催により支援

〔令和7年度：こころづくり絵画コンクール（実施：10月19日、参加者：645名）〕

(2) 優れた取組みを県内市町・団体等が情報共有し、相互に学びあえる仕組みづくり

ア ひょうご国際交流キャラバンプロジェクト

(R7年度決算額 6,160千円) (R6年度決算額 6,589千円)

「ひょうご国際交流団体連絡協議会」の会員団体等と連携して、兵庫県国際交流員（CIR）による国際交流イベントを各地で実施することにより、各地域の団体の活性化、ネットワーク強化を促進

・回数：11回

No.	派遣日	依頼元	実施イベント名
1	4月20日（日）	猪名川町国際交流協会	教えてあなたの国のこと ～中国編～
2	5月25日（日）	播磨町国際交流協会	国際交流 IN HARIMA
3	8月31日（日）	播磨町国際交流協会	子どもインターナショナルデー
4	10月19日（日）	宍粟市国際交流協会	第21回宍粟国際ふれあいまつり
5	10月26日（日）	三木市国際交流協会	第7回ぐるっとワールド in MIKI
6	10月26日（日）	姫路市文化国際財団	第27回 ひめじ国際交流フェスティバル
7	11月1日（土）	加古川市交際交流協会	教えて！国際交流員さん！！
8	12月13日（土）	宝塚市国際交流協会	宝塚市外国人日本語スピーチ大会
9	12月14日（日）	たつの市国際交流協会	WA0！楽しもう 国際交流フェスティバル2025
10	12月21日（日）	伊丹市国際・平和交流協会	つながる！ひろがる！みんなの文化2025
11	2月7日（土）	播磨町国際交流協会	アメリカ料理教室



韓国CIRによる韓国語しおり作り
(三木市)



アメリカCIRによるハロウィン紹介
(播磨町)

イ HIAパンフレット発行事業（新規）

(R7年度決算額 716千円) (R6年度決算額 1,496千円)

協会の概要パンフレットと従前のHIAの活動等を掲載した広報誌「Come HIA」を統合し、リニューアル。HIAの理念と実施事業について統一感を持たせ、魅力的かつ機能的なパンフレットを年1回発行。また、外国人県民に向けて、英語版、中国語版、韓国語版（いずれも電子版）を作成

- ・発行時期：6月
- ・発行部数：5,000部

ウ 国際交流団体等ネットワークの構築

(再掲)

エ 関係団体への支援

(各団体会計で計上)

兵庫EU協会、日本国際連合協会兵庫県本部、JICA 海外ボランティアひょうご応援団、兵庫県ユニセフ協会、国際防災・人道支援協議会（DRA）等の活動を支援することにより、国際問題や国際協力への関心を喚起するとともに、新たな交流の契機を創出

① 兵庫EU協会への支援

- a 兵庫EUセミナー「ボーダーレス時代の経営戦略～ハロルド・ジョージ・メイが贈るビジネスリーダーを目指す人たちへのメッセージ～」

- ・開催日：9月26日（金）
- ・場 所：ホテルクラウンパレス神戸 ザ・マーカス・スクエア
- ・講 師：ハロルド・ジョージ・メイ（元タカラトミー代表取締役社長）
- ・参加者：98人



ハロルド・ジョージ・メイ氏によるセミナー

② 日本国際連合協会兵庫県本部への支援

- a 兵庫県立大環境人間学部 SDGs 推進室との連携によるブース出展

- ・開催日：11月15日（土）
- ・場 所：兵庫国際交流会館
- ・内 容：国際交流フェスティバルにおいて、エコバッグづくりや認証マーク探しビンゴゲームを通してSDGsを考えるブースを出展
- ・参加者：111人

- b 難民ワークショップの開催（対面）参加者：42人

開催日	テーマ
7月2日（水）	難民とは
7月9日（水）	難民になるということ
7月23日（水）	難民の受け入れ

c 難民問題セミナーの開催（オンライン） 参加者：182 人

開催日	テーマ
11 月 26 日（水）	ベトナム難民として日本に暮らして
12 月 3 日（水）	パレスチナ ガザ・西岸地区で人道援助活動
12 月 10 日（水）	日本の難民認定の現場 適正な保護のために
12 月 17 日（水）	再出発する人々とともに シリア帰還民支援



県立大学生団体の SDG s ブース出展を支援



難民ワークショップ

③ JICA 海外ボランティアひょうご応援団への支援

a 国際協力入門セミナーの共同開催（再掲）

b JICA ボランティア派遣前表敬訪問・激励会

・開催日：7 月 9 日（水）、11 月 28 日（金）、3 月 23 日（月）



JICA 海外協力隊員表敬・激励会

(3) 次世代層が地域で国際理解を高め、グローバル社会で挑戦する契機の創出

ア 訪日教育旅行の誘致促進・学校交流支援

（R7 年度決算額 11,252 千円）（R6 年度決算額 11,248 千円）

訪日教育旅行において重視されている学校交流等を県内において促進するとともに、若年層の交流拡大によるリピーターや兵庫ファンづくりを図るため、教育委員会・学校・地域等における受入体制の推進に向けた調整等を実施

また、訪日教育旅行における学校交流事業に係る企画・調整や、学校現場と訪問団の円滑な交流の実現に向けた取組を推進

① 学校交流等受入実績

- ・形 式：対面及びオンライン（対面交流 41 件、オンライン交流 87 件、視察 11 件）
- ・実 績：139 件（台湾 81、韓国 34、米国 4、香港 4、インド 3、フランス 5、ニュージーランド 1、マレーシア 5、タイ 2）、3,282 人



マレーシアの小学生が書道を体験

イ オックスブリッジ英語サマーキャンプの実施

（R7年度決算額 957 千円）（R6年度決算額 767 千円）

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生を県内大学・高校等に派遣し、英語コミュニケーション力向上につなげる授業や国際交流事業を実施

- ・開催期間：7月18日（金）～8月13日（水）
- ・受入学生：4名
- ・受入団体：神戸女子大学、兵庫県立鳴尾高校、兵庫県立神戸高校、関西福祉大学、神戸女学院大学、神戸大学附属中等教育学校、宝塚市国際交流協会、JETS Academy
- ・参加者数：312 人



HIA イベント「ケンブリッジ大学生とまったりトーク」

ウ 外国人学校交流の推進

（R7年度決算額 1,634 千円）（R6年度決算額 1,228 千円）

外国人学校に通う児童生徒が兵庫県内の自然とのふれあいや地域住民との交流を通し、地域、ひいては兵庫県への理解を深めることを目的に、外国人学校が実施する自然学校等の事業に対し助成

- ・対象者：外国人学校
- ・助成額：助成対象経費の1／3（上限：428 千円／校）

- ・内 容：1泊2日以上の県内自然交流施設等での体験学習
- ・件 数：8校12事業（1泊2日10事業、2泊3日2事業）

エ 外国語指導助手(ALT)を活用した人材の育成

(R7年度決算額 180,044千円) (R6年度決算額 152,524千円)

外国語指導助手(ALT)を活用して、英語教育の充実を図るとともに、高校生の海外留学支援や姉妹校等との国際交流の推進を図り、豊かな語学力、コミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成

- ・配置校：全ての兵庫県立高等学校（全日制132校）
- ・内 容：海外姉妹校等の共同学習、高校生の海外留学の指導補助、学校及び地域の国際交流活動の指導補助等の事業に必要な経費の一部を負担

オ 留学生への兵庫の魅力のPRと自己学習・交流促進事業

(R7年度決算額 175千円) (R6年度決算額 178千円)

兵庫県への関心や県民との交流機会を創出するとともに、留学生の自主的な学習活動を支援するため、県内各地の博物館、美術館施設等の入場料の優待、割引を受けることのできる「ひょうごカルチャーパス」を県内の大学等で学ぶ留学生に配布

- ・対象者：兵庫県内の大学・大学院、短期大学、日本語学校、専門学校等で学ぶ留学生
- ・配布実績：80校、19,200枚
- ・対象施設：93施設

《その他事業》

1 外国人コミュニティ活動支援事業	〔再掲〕
2 医療機関における外国人患者受入れ環境整備	〔再掲〕
3 国際会議開催への助成	〔再掲〕
4 国際会議場の活性化への支援	〔再掲〕